



電気・情報に関する体験講座の実施（「プログラミング体験教室 スマホアプリを作ろうの会」、電気情報系学科の研究室公開）

代表者 | 菅原 一孔【教授】(工学部)、中川 匡夫【教授】(工学部)

共同実施者 | 氏名【職位】(所属)

連携先 | 自治体名、団体名、企業名

目的

若者の科学(工学)離れが叫ばれているが、幼少時の科学に対するあこがれは強い。そのため、幼少期から継続的に科学に触れる機会を提供することで、科学を身近なものとして認識してもらうことを目的として、平成22年より同講座を行っている。また、小中高生が科学の実践の場として鳥取大学を認識してもらえようと考えている。

取組み

MIT App Inventor という scratch と同種のビジュアルプログラミング言語及び環境(パズル様にコードを組めるもの)を使った、Androidスマートフォンでのプログラム作成講座を令和1年10月13日(日)(定員は午前午後で各25名)に工学部I棟1階計算機実習室において実施した。参加促進のための広報活動として、チラシ5,000枚の作成・配布(配布場所:鳥取市の図書館・公民館・小中学校など、そして鳥取大学の広報誌「風紋」の配布に同梱してもらい鳥取県内の高等学校と予備校)、鳥取市報9月号への告知記事掲載そして電気情報系学科ホームページにより行った。

成果

参加人数は41名(事前申込は27名、キャンセル0名、小学生参加者の保護者を含めた当日参加11名)で、うち小学生の事前申込が6名であった。アンケートの自由記入には「楽しかった・面白かった」「思った通りに動かせる」「パーツの組み合わせでプログラムできるのがいい」(以上、小学生他多数)などの意見が寄せられ、本講座への参加によりプログラミングの楽しさを実感してもらえたものと思われる。年齢層が上の意見では「奥が深い」「色々できる」「多数の設定が必要」といった記入もあり、簡単なだけでなく楽しさも理解・実感してもらえたようである。また、前年同様に「英語が基本だから難しかった(小学生他多数)」という意見があった。他にも「関数が難しい(小学生)」「進行が早かった(小学生他多数)」という意見があり、来年度は内容や進行速度を調整する必要が示唆された。



今後の展開

本講座は幼少期から継続的に科学(工学)にふれる機会を提供することで、科学を身近なものとして認識してもらうことを目的としているため、次年度以降もプログラミングの入門講座として実施する予定である。アンケートにあった英語が難しいという点については、近年日本語版が開発中になっており、その利用を検討している。



地域へのメッセージ

本講座によって、参加者は、自分が普段から持ち歩くスマートフォンに、各自が自分が望む小さなアプリを自作してインストールし、利用する事ができるようになった、少なくともその端緒は掴めたと考えている。子供か大人かに関わらず、生活のちょっとした事をそうしたアプリで補間して豊かにして行くと共に、工学への理解を深めて貰いたい。